

2024 年度 国際交流プログラム活動報告書



目次

国際交流プログラム報告書の発行にあたって	2
国際交流プログラムについて	3
1. 海外語学研修プログラム	4
2. 文化体験プログラム	7
3. 国際 PBL プログラム	9
4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入	15
5. 長期交換留学（派遣）	16
6. 海外研究支援プログラム	18
学部・学科独自プログラム	20
キャンパスでの国際交流	21
海外交流協締結機関一覧	23
グローバル学習支援、国際交流センター・LLC	26

表紙の写真は国際交流センターのインスタグラムからです。
ぜひフォローして活動の様子をリアルタイムでご覧ください。



Instagram @oit.kokusai





国際交流プログラム報告書の発行にあたって

本学の国際交流プログラムは、理工系大学ならではの特長を生かし、皆さんの目的・ニーズに合わせてさまざまな参加機会を設けています。海外の協定（協力）機関で研修する「派遣」、海外協定校などの学生を本学に招いて共に参加する「受入」、キャンパス内で留学生らと文化交流する「イベント」、インターネットを介して海外講師から講義を受ける「オンライン」留学など年間通じて数十件あります。

2024年度はこれらプログラムに延べ691人の本学学生が参加し、コロナ前の状況に回復しました。

また、ランゲージ・ラーニング・センター（LLC）には、ネイティブ講師3人が常駐し、英語教材も利用できるため、キャンパス内の日常で英語に親しめる機会に恵まれています。

活動場所や形態を問わず、多様な文化・価値観を持つ人たちと交流して、“他者を知り己を知る”ことは皆さんの視野を広げ、次のステップに進むきっかけにもなります。在学中にさまざまな国際交流プログラムに何度でも参加・チャレンジし、グローバル社会で活躍できる専門人材へと成長されることを心より願っています。

2025年3月吉日

国際交流プログラムについて

About OIT International Exchange Programs

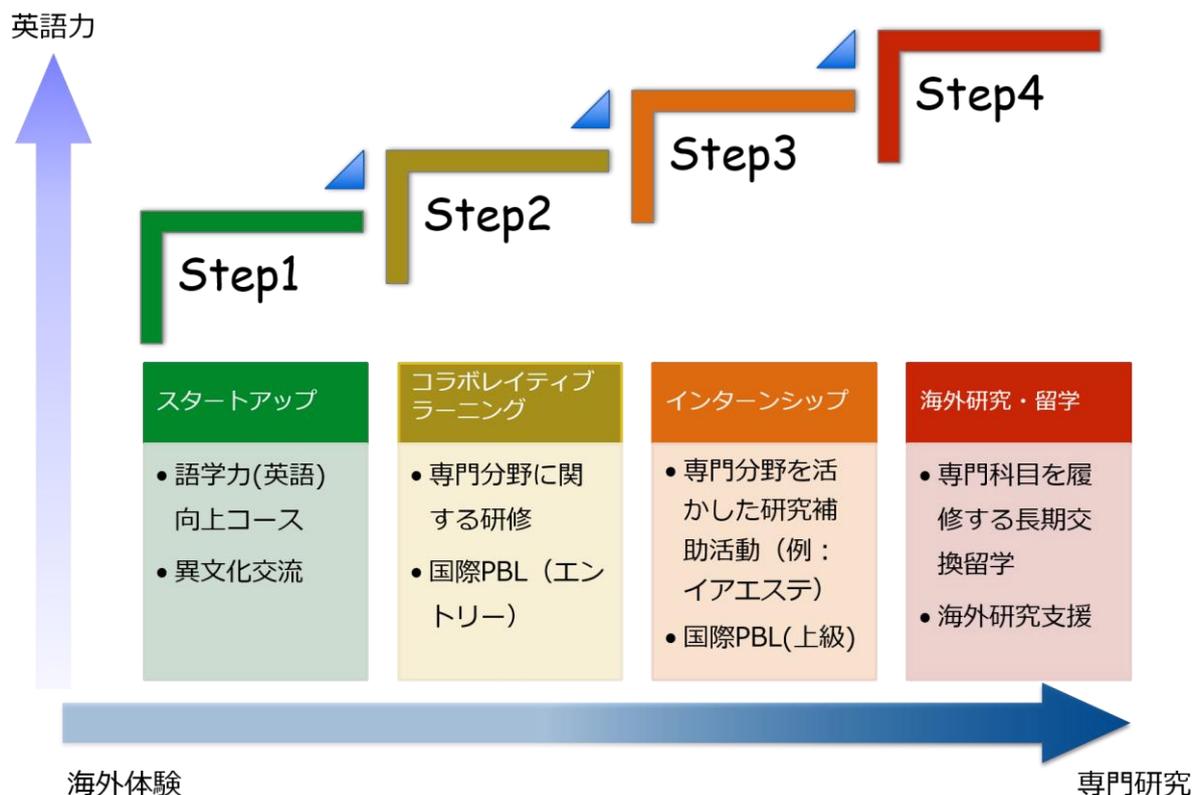
現代社会では、企業の生産拠点の海外移転、市場のボーダーレス化などにより、あらゆる活動に「グローバル化」が浸透してきています。本学における人材育成においても「グローバル化」への対応を最重要課題ととらえています。理系を中心とする本学としては、次の3点を「グローバル人材育成」のゴールとしています。

- ◆ 教育プログラム拡充と研究交流の相乗効果で持続発展性のある国際連携を推進する
- ◆ 多様な文化が共生できるキャンパス環境を構築し、学生・教職員の意識向上をはかる
- ◆ グローバル展開から得られた成果を積極的に地域・国際社会に還元する

上記の目標を達成するために、本学では次の点を重視して、さまざまな海外派遣プログラムを提供しています。

- 「グローバル社会」に対する入学時からの意識づけ
- 学年の進行に応じて段階的に高度化するプログラムを提供すること
- 海外の学生たちとの協働の実体験を通じた学びを取り入れること

国際交流・連携プログラム イメージチャート



Step 1

1. 語学研修プログラム Language Training Programs

国際交流センターでは、夏期や春期の休暇期間中に、海外の語学学校や協定校などの協力を得て英語圏での語学研修プログラムを実施しています。学部生は一定の条件を満たせば、「海外語学研修」の単位認定が可能です。2024年度はフィリピン、カナダ、アメリカ、イギリスのプログラムを実施しました。

2024年度 語学研修プログラム（オンラインまたは海外渡航）

国（都市名）	フィリピン（セブ）		カナダ（バンクーバー）
機関種別	語学学校		語学学校
機関名	GLC (Global Language Cebu)		CCEL (Canadian College of English Language)
実施形態	オンライン	海外渡航	海外渡航
内容	英語研修		英語研修
授業形態	マンツーマンレッスン	マンツーマンレッスンとグループレッスン	グループレッスン 1クラス平均12人
宿泊先	自宅	語学学校寮（授業と同建物）	ホームステイ
単位認定	あり（2単位）※ただし条件あり		
夏実施	120回コースもしくは160回コース	2024年8月18日～9月14日のうち2, 3, 4週間	2024年8月18日～9月16日のうち2, 3, 4週間
参加人数	4人	13人	3人
春実施	120回コースもしくは160回コース	2025年2月～3月のうち3, 4週間	2025年2月～3月のうち3, 4週間
参加人数	4人	5人	3人
実施概要	講師とのマンツーマンレッスンで英語を集中的に学びました。オンライン語学研修は費用を抑えられることや海外留学の経験がない学生にとって派遣前のステップとしてもお勧めです。	フィリピン・セブ島にある語学学校 GLC では、フレンドリーな先生とマンツーマンとグループレッスンで集中的に英語を学びました。寮では他国からの学生とルームメイトになり、授業外でも英語を使って交流しました。週末は様々なアクティビティに参加し、メリハリのある留学生活を送ることができました。	カナダ・バンクーバーにある語学学校 CCEL では、グループレッスンで集中的に英語を学びました。多国籍な学生が在籍していたので、日本ではできない異文化交流ができました。また滞在方法はホームステイだったので、学校外でも英語や異文化について理解を深めました。

語学研修プログラム 参加学生の報告



Global Language Cebu

夏期プログラム（渡航型）

このプログラムに参加して、英語でのコミュニケーションの素晴らしさを実感しました。最初は授業内容がほとんど理解できず、会話もできなかったため、非常にショックを受けました。しかし、マンツーマンとグループレッスンのおかげで少しずつ英語に慣れ、休日には現地の方と会話を楽しむことができたとき、とても嬉しく感じました。プログラム前は日本で周囲の目を気にして授業で質問することを避けていたのですが、授業で間違いを恐れずに積極的に発言するようになり、自分の思っていることを相手に伝える喜びを感じました。これにより、コミュニケーションの楽しさを実感し、生活がより充実したものになりました。プログラムを通じて、自分に自信を持つことが大切だと学び、その後の生活でも積極的に挑戦する姿勢を持ち続けています。この経験は、私の人生にとって大きな成長となりました。



修了式にて

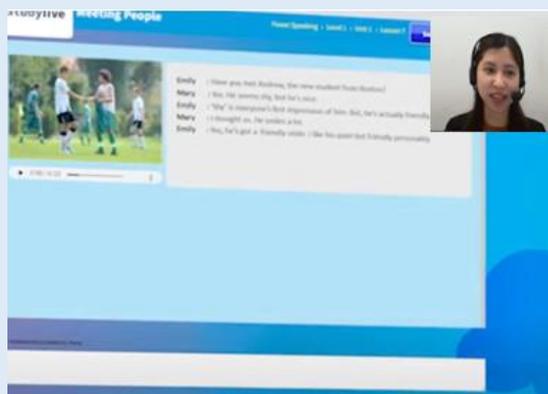
[工学部応用化学科 1年] 2週間プログラムに参加



Global Language Cebu

夏期プログラム（オンライン型）

今回のプログラムを通じて、日常的な表現から専門的な分野で使われる言葉まで幅広く学びました。レッスンはテーマにちなんだ単語学習から始まり、例文のリスニングとリーディングを通じて、内容をしっかり理解することができました。その後、さまざまな形式の問題を解くことで、理解が不十分な部分を把握し、再度先生と学び直すことができました。最終的には、テーマに関するディスカッションを行い、自分の意見を英語で表現するアウトプットの練習もできました。最初は難しく感じましたが、自分の意見がしっかり伝わり、賛同してもらえたときには、英語を学び続けたいという気持ちが強くなりました。また、よく担当していただいた先生との会話でフィリピンの文化についても学び、異文化を理解する貴重な経験となりました。



授業イメージ

[情報科学部データサイエンス学科 1年] 120回コースに参加



Canadian College of English Language

夏期プログラム（渡航型）

これまで家族での海外旅行経験はありましたが、ホームステイは初めてで、到着前はとても緊張していました。しかし、ホストファミリーが温かく迎えてくださり、すぐに緊張がほぐれました。家では感謝の気持ちを忘れず、積極的にコミュニケーションを心がけました。語学学校では素晴らしい先生やクラスメイトに恵まれ、毎日が楽しかったです。学校生活の中で、クラスメイトの前で発言すること・ミスをする事など、普段の日本で感じていた後ろめたさをカナダでは全く気にすることなく、どんどん自分を表現できるようになりました。この経験を通じて、今後も自分らしく積極的に行動していきたいと感じています。



クラスメイトと

[工学部機械工学科 2年] 2週間プログラムに参加

2024年度 海外大学提供プログラム（海外渡航）

国（都市名）	アメリカ（サンフランシスコ）	イギリス（オックスフォード）
機関種別	協定大学	大学
機関名	サンフランシスコ州立大学	オックスフォード大学 - インターナショナルイングリッシュスクール
内容	英語研修と文化体験	英語研修と PBL 型学習
授業形態	グループレッスン	グループレッスンと オンラインマンツーマン（ハイブリッド型）
宿泊先	ホテル	ホームステイまたは大学寮
単位認定	あり（2単位）※ただし2週間プログラムは対象外。また一定の条件を満たすこと	
夏実施	2024年8月12日～9月8日のうち2～4週間	2024年8月4日～9月14日のうち2, 3週間
参加人数	参加者なし	2人
春実施	2025年2月17日～3月14日（3週間）	2025年3月2日～22日（3週間）
参加人数	2人	1人
実施概要	海外協定校が提供する語学研修と文化体験のプログラムです。大学での英語授業だけでなく、サンフランシスコのカラフルで多様な地域を探索しながら、英語力を身につけました。また、サンフランシスコ・ベイエリアの芸術、ビジネス文化、テクノロジーについて学びました。	ヨーロッパ、アジア、南米、中東からの学生が参加する国際的なクラスで、英語4技能を習得。加えて、気候変動、ジャーナリズム、LGBTQ+、人種、SDGs、多様性等々、グローバル社会における様々な問題について活発に話し合いました。夕方は1対1の個別オンライン授業で会話力を磨きました。

参加学生の報告



San Francisco State University

春期プログラム（渡航型 3週間）

授業は主に講義形式で進められ、基本的には講師の話聞くスタイルでした。数人の学生が一人の現地学生とグループになり、英語で会話する練習をする時間では、最初は受け身になりがちでしたが、周囲が話しかける様子を見て、自分から話すことの大切さを実感しました。午後は、街に出て観光をすることが多かったです。授業を通じた学びだけでなく、街に出て実際に現地の人々と触れ合うことで、よりリアルな異文化体験ができたと感じます。日本にいるときには気づかなかった言語の使い方や、文化的な違いを、身をもって体験することで、言葉は単なるツールではなく、その土地の文化や考え方を反映したものであると再認識しました。この経験を今後の学びや交流に活かし、より積極的に異文化と関わっていきたいと思います。

[工学部応用化学科 1年]





Oxford University

夏期プログラム（渡航型 2週間）

授業中に軽い食事をしたり、先生とより対等に会話できたり、度々授業を少し中断して質疑応答に答えてくれたりと日本の授業とかなり異なっていて刺激的でした。特にディスカッション形式の授業が印象的でした。異なる国で、異なる文化を持つ学生たちと意見を交わすことで、視野が広がり、新たな視点を得ることができました。また、イギリスの文化や歴史に触れる機会も多くありました。週末にはロンドンを訪れ、美術館や博物館を巡ることで、教科書では学べない深い知識を得ることができました。さらに、ホームステイ先の家族との日常会話を通じて、実践的な英語力が向上しただけでなく、イギリスの家庭文化や生活習慣についても少しだけ理解することができました。

[情報科学部情報知能学科 2年]



2. 文化体験プログラム Overseas Culture Experience Programs

2024年度 文化体験プログラム（海外渡航または受入）

国（都市名）	韓国（大田広域市）		インドネシア（スラバヤ）
機関種別	協定大学		協定大学
機関名	大田大学校		ウイドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ
内容	韓国語研修と文化体験		国際共同文化体験（派遣） 国際共同文化体験（受入）
宿泊先	大学寮		ホテル 大学寮
単位認定	なし		
実施期間	2024年8月8日～25日 (18日間)		2025年2月16日～2月23日 (8日間) 2025年1月14日～1月20日 (7日間)
参加学生数	本学6人、摂南大学11人、大田大17人		本学6人、芝浦工業大学15人、国立台湾科技大学3人、ウイドヤマンダラ21人 ウイドヤマンダラ6人 本学6人
実施概要	初級韓国語の授業、文化施設見学、K-POPダンスレッスン、フィールドトリップ（ソウル、プサン）等の活動を通して韓国の文化や歴史を学びました。現地の学生との交流機会が多かったこともあり、帰国後、本学参加者1人が2025年度長期交換留学（1年間）で大田大学校に留学します。		エコロジー問題に対処するための創造的なキャンペーンの模索をテーマに、スラバヤにある廃棄物管理会社の見学や参加校の学生とのグループ活動を行いました。ほかにはキャンパスツアーやインドネシアの文化と言語に関するオリエンテーションが開催され、参加学生にとって貴重な体験となりました。
			モノづくりを通じてSDGsを理解することを目的とした体験プログラムです。家庭から出るプラスチックごみを減らすために容器の要らない固形石鹸に焦点を当て、牛乳石鹸の製造工場を訪ねて製造工程を見学したり、固形石鹸づくりの実習に取り組んだりしました。両国の学生は積極的にコミュニケーションを取り合い、友情を育む有意義な時間を過ごしました。

参加学生の報告



DaeJeon University

2024年8月派遣

コロナ禍に自主勉強で身につけた韓国語の基礎レベルの会話が現地ですどの程度通じるのか試してみたいと思い参加しました。平日に毎日約4時間の韓国語授業に参加したことで、現地の学生や店員と話す際に自信が持てるようになりました。また、韓国の伝統衣装体験や、韓食について学ぶ機会も多くありました。実際に外国に住む経験を通して旅行ツアーでは絶対の経験できない時間を過ごしたことで、自身の意識変化もあり、卒業後のキャリアを考える良いきっかけになりました。

[知的財産学部知的財産学科2年]



修了式にて



Widya Mandala Catholic University Surabaya

2025年2月派遣

今回は初めての海外だったこともあり、日本とは異なる食生活や文化、生活習慣を体験することで自分の考え方や価値観が変わりました。国や文化はちがえどそれを理由に壁を作ってしまうのではなく、常に角度を変えて相手を受け入れ、理解しようとする考え方が大切であることを学びました。現地の学生や先生が親切で、予期せぬ出来事やトラブルに遭遇した時はとても親身に対応してくれました。日本でも今回のプログラムで得た経験を活かして、広い視野で物事を見て、自分の知らない世界や分野に恐れることなく挑戦して様々なことを学び、吸収していきたいです。

[工学部応用化学科2年]



空港で記念写真

Step 2,3

3. 国際 PBL プログラム International PBL Program (Hands-on Engineering Program)

学部2～3年生を主な対象として、海外の大学を活動の拠点に1週間程度の期間でPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を実施するプログラムです。英語を使用言語として、海外の学生と混成チームを作り、それぞれの学生の専門性を発揮しながら、1週間程度、共通の課題に取り組むことで、学生の多様な能力を引き上げます。プログラムの内容によって、国際交流・連携プログラムのStep2(国際PBLエントリー)、Step3(国際PBL上級)に分類されます。

◆ 国際 PBL の概要

プログラムの特長

PBLは、与えられた課題を制限された条件下で取り組むことで、学生の多様な能力を引き出します。その国際版は、グローバルな交流を通じて、PBLの達成感とダイバーシティ（多様性）を感じてもらうことが狙いです。



グローバル人材に必要な「課題解決力」の3要素



◆ 国際 PBL を行う意義



日本人とは異なる価値観を持った人たちと協働で作業に取り組むことで、予想外の多岐にわたるアイデアが生まれます。PBLのプロセスはイノベーションそのものなのです。本学では今後さらにグローバル化が進展する将来を想定して、異なる価値観を持つ海外学生とのPBLが有効と判断し、2013年度から本プログラムを開始しました。社会が求めるグローバル人材育成の目的の一つは「課題解決力」であり、本学が実施している国際PBLはまさにこの趣旨に合致するものです。

本学では2020年度からSDGs（エスディージーズ/持続可能な開発目標）を共通テーマとして設定し課題に取り組んでいます。

工学部・都市デザイン工学科



受入プログラム

参加大学 国立台湾科技大学（台湾）

開催期間 2024年8月25日～8月31日（7日間）

参加学生 国立台湾科技大学 10人
本学 10人

テーマ 橋梁模型の設計・制作

実施概要

両大学の学生が混成チームを組み、指定された材料を用いて橋梁模型を設計・制作し、コンペ形式で、強度、技術、プレゼンテーションが評価され、学生たちは創意工夫で個性的な模型を完成させました。参加学生からは、「与えられた条件を満たす橋を設計・制作するという同じ作業を通じて、異なる文化や言語を話す学生たちとのコミュニケーションやチームワークを学ぶことができた」との感想が寄せられました。



橋梁模型の制作

工学部・建築学科



受入プログラム

参加大学 北京科技大学（中国）

開催期間 2024年8月5日～8月11日（7日間）

参加学生 北京科技大学 19人
本学 13人

テーマ 建築計画・構造設計

実施概要

今年度は北京科技大学と初めて国際PBLを実施。両大学の参加学生は6チーム（都市計画、建築設計と耐震構造それぞれ2チームずつ）に分かれ、京都と奈良の日本伝統建築（群）に対して、チームごとに調査対象を選定し現地調査を行いました。北京科技大学の学生から、事前に収集した中国の伝統建築に関する情報について共有がありました。最後にチームごとに日本と中国の伝統建築に関する調査結果を取り纏め、その成果を英語にて発表しました。



成果発表会にて

工学部・機械工学科



派遣プログラム

派遣先 国立台湾科技大学（台湾）

開催期間 2024年8月19日～8月25日（7日間）

参加学生 本学 24人
国立台湾科技大学 13人
カントー大学（ベトナム） 5人
チェンマイ大学（タイ） 3人

テーマ 風レンズ付き風車の設計・製作

実施概要

異なる国の学生が混成チームを組み、風車の設計・製作に取り組みました。風洞や加速度計を用いて発電性能と振動特性を計測し、進捗報告や最終日の発表会で評価を行いました。チームは風車の性能、デザイン、スケジュール管理、プレゼン内容、チームワークを競い合いました。参加学生からは、「チームでの改善点発見や数値向上の追求の大切さを学んだ」「多国籍のメンバーとの協力で技術的な問題を乗り越え、優勝を果たした」という感想が寄せられました。



風レンズ組み立ての様子

工学部・電気電子システム工学科



派遣プログラム

工学部・電子情報システム工学科

派遣先 南台科技大学（台湾）

開催期間 2024年8月11日～8月17日（7日間）

参加学生 本学 10人
南台科技大学 10人
サンホセレコレトス大学（フィリピン）10人

テーマ Smart Visualization Drone 2024

実施概要

3大学の学生が国籍混合チームを組み、画像認識を可能とするドローンをハード・ソフト合わせて4日で作成すること、ジェスチャーをカメラで確認し、指示通りの飛行制御を行うプログラムを作成することという2つの目標に向けてそれぞれの専門性を活かしチームワークを発揮しました。学生からは「他大学のチャレンジ精神や学びへの姿勢に触れ、学習意欲が高まった」「台湾の文化、風土など実地体験が非常に有益で刺激的だった」などの感想が寄せられました。



ドローンの飛行テスト

工学部・電子情報システム工学科



派遣プログラム

工学部・電気電子システム工学科

派遣先 国立台北科技大学（台湾）

開催期間 2024年8月8日～8月17日（10日間）

参加学生 本学12人、国立台北科技大学11人、九州工業大学・九州大学（日本）、ハノイ大学・ホーチミン市立大学（ベトナム）、タマサート大学（タイ）、グダニスク工科大学（ポーランド）、ニュージャージ工科大学・カリフォルニア大学リバーサイド校・シンシナティ大学・アリゾナ州立大学・ワシントン大学（アメリカ）計53人

テーマ Intelligent Vehicle Challenge 2024

実施概要

台北科技大学との国際PBLは今年度で11回目を迎え、6か国13大学計76名の参加となりました。各大学の学生が混合チームになり、自立的に行動する車体の製作に取り組み、英語を使った活発なディスカッションが見られました。最終日の車体走行会では、各チームが完成した車体でミッションクリアを目指しそれぞれの活動成果を披露しました。学生からは「普段の大学生活では得ることのできない経験をする事ができました」「刺激的で楽しみながらも苦勞を味わえた。良い経験をしました」などの感想が寄せられました。



チームプレゼンの様子

工学部・応用化学科



派遣プログラム

参加大学 国立台湾科技大学（台湾）

開催期間 2024年8月27日～9月2日（7日間）

参加学生 本学 11人、国立台湾科技大学 23人、ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ、スラバヤ工科大学、ガジヤマダ大学（すべてインドネシア）6人

テーマ 化学工学分野へのAI導入

実施概要

国立台湾科技大学の講義やラボ体験を通じてサステナビリティに関する理解を深めることを目的としています。また、国際的な知見、異文化理解力、コミュニケーション能力の向上を目指し、参加学生は異文化の中で協働しながら学びを深めました。チームは本学の学生とインドネシアの学生で構成され、台湾科技大学の学生がサポートとして加わりました。各チームは日々の講義やラボ体験を通じてテーマに取り組みました。



オープニングセレモニーにて

工学部・応用化学科



さくらサイエンス受入プログラム

参加大学 タマサート大学 (タイ)

開催期間 2024年8月5日～8月11日 (7日間)

参加学生 タマサート大学 8人
本学 8人

テーマ 精密合成法を利用した高分子合成

実施概要

科学技術振興機構 (JST) のさくら招へいプログラムの支援によりタイのタマサート大学から学生を招へいし、本学の学生とともに国際合同セミナーを実施しました。自己組織化によって構造色を示すことができるポリマーを、リビングアニオン重合という高度な高分子合成手法を用いて合成しました。複数のチームに別れて実験、その結果をプレゼンテーションしました。また、最先端の放射光施設である SPring-8 の見学や、京都観光を通じて、日本の技術力と文化を学びました。



本学応用化学科での実験の様子

工学部・生命工学科



派遣・受入プログラム

参加大学 大同大学 (台湾)

開催期間 [派遣]2024年8月4日～8月10日 (7日間)
[受入]2024年8月18日～8月24日 (7日間)

参加学生 本学 15人
大同大学 15人

テーマ 生命工学分野の国際ジョイントプログラム

実施概要

大同大学と本学を往来する形でプログラムを行いました。プログラムは両大学の学生が混合で5班に分かれ、それぞれ異なるテーマが与えられ、ホスト校の学生が指導する形で実験に取り組み最後に英語でプレゼンテーションを行いました。また、派遣・受入プログラムにおいて、それぞれのホスト校の学生が文化体験ツアーを企画し、相手校の学生に自国の文化を知ってもらう機会を提供しました。



大同大学での実験の様子

ロボティクス&デザイン工学部



派遣プログラム

派遣先 国立雲林科技大学 (台湾)

開催期間 2024年9月1日～9月7日 (7日間)

参加学生 本学 10人
国立雲林科技大学 10人

テーマ デザイン思考に基づく高齢者のためのデザイン

実施概要

学生自身がデザイン思考を理解して国際チーム内での協働により課題をクリアすることを目的に、本学学生2名と雲林学生2名で1チームを構成。5チームがそれぞれ「老人の孤独感への提案」「入院中の老人への提案」「老人向けコミュニケーション提案」「老人の入浴時の転倒への提案」「老人の正しい薬服用の提案」を行いました。ワークショップだけでなく、英語によるプレゼンテーションや地域交流、日本の文化紹介、現地の施設見学も行い、学生たちにとって貴重な国際交流の機会を提供できました。



博物館見学での記念集合写真

ロボティクス&デザイン工学部



受入プログラム

参加大学 タマサート大学シリントン国際工学部 (タイ)

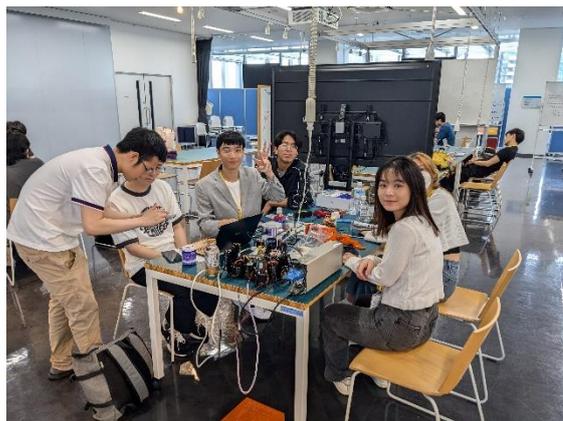
開催期間 2024年7月14日～7月20日 (7日間)

参加学生 タマサート大学シリントン国際工学部 10人
本学 2人

テーマ レスキューロボット技術の理解と実装

実施概要

梅田キャンパスのロボティクス&デザインセンターを活用しワークショップとコンテストを実施しました。ルールは日本で実施されているレスキューロボットコンテストの課題をベースとして決められた時間内にダミー人形を現場から救出するシナリオで、タイからのチームはその設定課題の多くで得点を得るロボットを与えられた時間内で開発しました。本学とタイのチームはより高度な多脚ロボットを実際に救助できる機構と組み合わせるところまで開発が進みました。これらの機会をとおして優しい救助の難しさとロボットの開発技術について理解を深めることができたことを確信しています。



ロボティクス&デザインセンターでの開発風景

ロボティクス&デザインセンター



受入・派遣プログラム

参加大学 国民大学校 (韓国)、国立台北科技大学 (台湾)

開催期間 [日本]2024年6月28日～7月19日 (22日間)
[韓国]2024年7月19日～8月7日 (20日間)
[台湾]2024年8月7日～8月26日 (20日間)

参加学生 国民大学校 9人
国立台北科技大学 10人 本学 4人

テーマ 産学連携PBLによる創造力強化方法の探求

実施概要

企業が直面する課題にソリューションを提案するため、デザイン思考のプロセスを用いた革新的なアイデア創出を行うと共に、学生のイノベーション人材育成を目的として、4回目の今回は3大学23人が、積水ハウス、HORIBA、Compal、Biotegyの4社の課題に2か月間4チームで取り組みました。与えられた課題は、それぞれ「未来の家のデザイン」「将来のEVのデザイン」「5年後のAIを活用したパソコンのUI」「味の情報、匂いの情報、触覚にかかわる情報の伝送方法」です。日本では、課題分析、ユーザー調査、初期のアイデア生成などを実施。韓国に場所を移しアイデア生成、モックアッププロトタイプ作成などを実施。ファンクショナルプロトタイプの作成、評価、さらなる改良を実施し、最終報告を行いました。また活動中にそれぞれの企業や研究所などの見学も行いました。



国民大学校での活動の様子



台北科技大学での最終報告会の様子

情報科学部



受入プログラム

参加大学 泰日工業大学 (タイ)

開催期間 2024年4月1日～4月8日 (8日間)

参加学生 泰日工業大学 10人
本学 10人

テーマ DXによるSDGs達成のためのアイデアソン

実施概要

泰日工業大学の学生と本学の学生で構成された各班がSDGsの項目から1つテーマを選択し、情報科学の力で達成する方法について調査や議論を行いました。最終日には、班での活動から得られた結果を適切にまとめて発表しました。班員とのコミュニケーションは英語になりますので、容易ではない点もあったと思いますが、参加者にとって良い経験になったと思います。



クロージングセレモニーにて

情報科学部



受入プログラム

参加大学 タマサート大学シリントーン国際工学部（タイ）

開催期間 2024年6月11日～6月15日（5日間）

参加学生 タマサート大学シリントーン国際工学部 12人
本学 15人

テーマ Image Recognition Programming Challenge

実施概要

4つの混成チームに分かれた学生は、初日から積極的かつ熱心に議論しながらチーム開発を開始しました。各チームが設定した「SIGN LINGO」（動作の練習や試験機能もある手話の学習支援ソフト）、「Buzz Wire Game（イライラ棒）」（手や体を大きく動かしてコースを進むゲーム）、「ViZy:The Alzheimer's Patient Glasses」（学習や認識機能を利用してカメラに映った人の氏名や続柄を表示するソフト）、「DANGEROUS DRIVING DETECTOR」（目を閉じた時間や正面を向いていない時間が長いときに警告を出すソフト）について、分担協働して開発に取り組みました。最終日にはデモなどを交えたプレゼンを行い、表彰式を行いました。



プロジェクト風景

情報科学部



受入プログラム

参加大学 韓国芸術総合学校（韓国）

開催期間 2024年9月22日～9月27日（6日間）

参加学生 韓国芸術総合学校（K-Arts） 6人
本学 11人
（情報メディア学科7人、空間デザイン院生4人）

テーマ 水辺体験によるウェルビーイング

実施概要

期間中の3日間、K-Artsのデザイン学科の学生と国際ワークショップを実施しました。秋の水都大阪をクルーズ船でめぐる体験をもとに、長い年月、船をつなぐ役割を担ってきた廃ロープと大阪のものづくりの中で生まれる様々な端材を主な素材として3グループが「橋の構造と水面が織りなす光を通した美しい水面のきらめきを表現した作品」「ロープを解いていくつかの線を作り、編んで「かご」のような休息を与える作品」「風鈴をモチーフにして音と光の波で人々に楽しさを与える照明オブジェクト」制作しました。



OIT 梅田タワー1階ギャラリーにて3作品を展示

国際交流センター



派遣プログラム

参加大学 マレーシアサイنز大学（マレーシア）

開催期間 2025年2月22日～3月1日（8日間）

参加学生 本学 9人
マレーシアサイنز大学 14人

テーマ Bridging Innovation and Sustainability:
Advancing Cultivated Meat and Alternative Proteins Through Global Collaboration

実施概要

マレーシアサイنز大学とその学生団体 USM Alternative Protein (USM APP)と連携して行われました。プログラムでは、培養肉や代替タンパク質に関する講義や企業訪問を通じて学びを深めました。さらに、ペナンサイエンスハイスクールを訪問し、USM APPの代替タンパク質普及活動に参加しました。本学の学生は、日本の代替タンパク質の歴史や現状を紹介し、節分と大豆のつながりをテーマに、舟の折り紙アクティビティを実施しました。最終日にはグループごとに代替タンパク質普及アイデアを発表しました。サステナビリティや多文化理解に関する貴重な学びを得ることができました。



サイエンスハイスクールでの活動後の記念撮影

国際交流センター



さくらサイエンス受入プログラム

参加大学 国立台湾科技大学（台湾）

開催期間 2024年7月28日～8月3日（7日間）

参加学生 国立台湾科技大学 15人
本学 6人

テーマ ものづくり技術体験からSDGs達成をめざす発展プログラム

実施概要

両国の学生が環境に配慮した持続可能な社会の構築に向けて、技術大国日本でSDGsに関連したものづくり技術を学びました。染料科学や再生可能エネルギー技術に関する講義を受け、オレンジ II の合成や染色技術を実践。京都では京友禅染色体験を行い、伝統技術と環境問題について学びました。最終日には成果発表を行い、プログラムを通して得た学びを今後の専門分野に活かす方法を共有しました。



京友禅染色体験

国際交流センター



EiA 派遣受入プログラム

参加大学 セプルーノペンバー工科大学（インドネシア）
カントー大学（ベトナム）
国立台湾科技大学（台湾）

開催期間 [インドネシア] 2024年7月15日～7月30日（16日間）
[ベトナム] 2024年7月15日～7月31日（17日間）
[日本] 2024年8月19日～8月26日（8日間）

参加学生

[インドネシア] 本学 1人、国立台湾科技大学 9人、
セプルーノペンバー工科大学(ITS) 10人
[ベトナム] 本学 2人、国立台湾科技大学 8人、
カントー大学 10人
[日本] 国立台湾科技大学 5人、本学 7人

テーマ Engineers in Action (EiA)

[インドネシア] アクアポニックとグリーンハウス製作
[ベトナム] ガーデニングハウスと持続可能な屋根の製作
[日本] 環境に優しい石けんづくりとろ過実験

実施概要

[インドネシア] 近代設備がなく、あまり雨の降らない高所の Magetan 村で、持続可能な食物を育てる仕組みを作るため、2週間合宿しました。アクアポニック班は4種類の苗を育て、下の水槽部分に魚を入れ、そのフン等を植物の肥料として利用する計画を遂行しました。グリーンハウス班は、建設を土壌慣らしから、太陽電池のついた屋根の取り付けまでを行いました。

[ベトナム] カントー郊外の田舎の学校に出向き、プロジェクト活動を行いました。建設班は野菜を育てるためのガーデニングハウスを製作し、廃棄物を腐葉土として再利用したり、鉄鋼を土中に差し込む際にできるだけ人の手を使ったりして二酸化炭素排出を抑え、環境への負荷を軽減する仕組みを考えました。

[日本] 地域素材を生かした環境に優しい石けんづくりとろ過実験をテーマに、8月24日奈良県川上村の源流分校で、同25日大宮オープンキャンパスでワークショップを行いました。専門分野や学年の異なるメンバーが①石けん班、②3D成形班、③パッケージデザインの3班に分かれ、本番まで意見交換・サンプル試作を繰り返し、学生主体でワークショップの企画運営を担当しました。



[インドネシア] グリーンハウスの屋根を取り付け



[ベトナム] ガーデニングハウスの製作



[川上村] 地元の児童にワークショップを実施

Step 3

4. IAESTE 海外インターンシップ派遣・受入 Overseas Internship

IAESTE（イアエステ）とは、The International Association for the Exchange of Students for Technical Experience の略称で理工農薬学系学生のための海外インターンシップを仲介している国際 NGO 団体です。世界 80 カ国の企業または大学・研究所がインターンシップを提供していて、期間は最短 8 週間～最長 52 週間で、派遣先から生活費が支給されます。本学では意欲ある学生にイアエステへの応募を奨励し、渡航支援を行っています。またイアエステを通じて、海外からインターンシップ生を学内の研究室に受け入れています（夏の 2 カ月程度）。

2024 年度には、派遣者はいませんでした。以下のインターンシップ生 1 人を受け入れました。

- 所属：ジェシュフ工科大学（ポーランド）電気コンピューター学部 2 年
- 受入先：工学部 電気電子システム工学科
プラズマ・環境工学研究室（吉田恵一郎 教授）
- 期間：2024 年 7 月～9 月（53 日間）



IAESTE インターンシップ生の派遣実績

年度	派遣先
2019	Universidade Estadual Paulista (ブラジル)
2017	Manipal Institute of Technology (インド)
2016	University of Information Science and Technology "St. Paul the Apostle" (北マケドニア)
2014	Karunya University (インド)

IAESTE インターンシップ生の受入実績

年度	所属大学
2024	Rzeszow University of Technology (ポーランド)
2023	Purdue University (アメリカ)
2022	Poznan University of Technology (ポーランド)
2019	Sultan Qaboos University (オマーン) University of Chemistry and Technology (チェコ)
2018	Slovak University of Technology (スロバキア) Technical University of Hamburg (ドイツ)
2017	Gdansk University of Technology (ポーランド) Lodz University of Technology (ポーランド)
2016	Brno University of Technology (チェコ) Budapest University of Technology and Economy (ハンガリー)
2015	Kwame Nkrumah University of Science and Technology, KNUST (ガーナ) Tomas Bata University in Zlin (チェコ)
2014	Norwegian University of Science and Technology (ノルウェー)

Step 4

5. 長期交換留学（派遣） Student Exchange Program (Outbound)

大阪工業大学の協定校で学生の交換条件を明記している大学、および本学が加盟している UMAP（アジア太平洋大学交流機構, University Mobility in Asia and the Pacific）の大学において、在学中に最長1年間、学費負担なしで留学するプログラムです。専門科目の授業履修や研究室インターンシップを主とするため STEP4 に分類していますが、語学学習（英語、韓国語、中国語等）を目的とした留学もできます。

2024年度は、フランスに2人、ドイツに1人、韓国に1人、マレーシアに1人、フィリピンに1人の計6人を派遣しました。また、韓国、フィリピン、台湾への交換留学に参加した学生4人が帰国しました。

長期交換留学の派遣実績（2016～2024年度）

年度	国・地域	機関	目的	所属 (開始時)	期間
2024	マレーシア	マレーシアサイエンス大学	授業履修	V科2年	2025年3月～2026年2月 [約12カ月間] 予定
	ドイツ	HAWK 応用科学芸術大学	授業履修	RD 研究科 Wコース1年	2025年3月～2025年8月 [約6カ月間] 予定
	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	P科2年	2025年3月～2026年1月 [約11カ月間] 予定
	フィリピン	サンホセレコレトス大学	語学学習（英語）	P院1年	2025年2月～2025年8月 [7カ月間]
	フランス	ボルドー大学	授業履修	IC科3年	2025年1月～2025年7月 [約6カ月間] 予定
	フランス	ボルドー大学	授業履修	IC科3年	2024年8月～2025年7月 [約11カ月間] 予定
2023	韓国	大田大学校	語学学習（韓国語） 後半は授業履修も	S科2年 W科2年	2024年3月～2025年1月 [約11カ月間]
	フィリピン	サンホセレコレトス大学	語学学習（英語） 後半は授業履修も	P院1年	2024年3月～2024年9月 2024年11月～2025年2月 [計10カ月間]
	台湾	国立台北科技大学	授業履修	P院1年 (2人)	2024年2月～2025年1月 [約11カ月間]
2022	アメリカ	アンジェロ州立大学	語学学校・授業履修	IC科3年	2022年8月～2023年6月 [約10カ月間]
2019	オーストリア	ウィーン工科大学	研究	工学研究科 Aコース1年	2020年2～3月 [約2カ月間] ※コロナの影響で途中帰国(当初予定は8月上旬まで)
	台湾	南台科技大学 中国語センター	語学学習（中国語）	IS科3年	2019年9月～2020年1月 [約4カ月間]
2017	フィンランド	タンペレ工科大学 (現タンペレ大学)	授業履修	U科3年	2017年8月～2018年5月 [約9カ月間]
2016	フィンランド	タンペレ工科大学 (現タンペレ大学)	授業履修	A科4年	2016年8月～12月 [約5カ月間]

※学科記号について

S：システムデザイン工学、W：空間デザイン、P：知的財産、IC：情報知能、A：建築、IS：情報システム、V：環境工学、U：生命工学

長期交換留学 参加学生の報告



大田大学校

2024年3月～2025年1月 [約11ヵ月間]

前期は大田大学校韓国語教育センターにて韓国語の基礎をしっかりと学び、中級レベルに達したため、後期は韓国の学生と一緒に授業履修をしました。学内の韓国語教育センターでは、授業がすべて韓国語で行われました。授業履修の際は必ず予習・復習をしても難しく感じましたが、帰国前には一人で生活対応できるレベルに到達できたため、今後新しい挑戦をする際は自信を持って挑む力を身に付けることができました。

[ロボティクス&デザイン工学部システムデザイン工学科2年]

夏期の大田大学校文化体験プログラム(約3週間)に参加したことがきっかけとなり、今回の長期交換留学への参加を決意しました。大学の雰囲気や環境を事前に知った上で、長期的に韓国で生活をするので、心に余裕をもって長期留学生活を送る事ができました。「talking club」に所属し日本語学科の学生に週1回日本語を教えたり、スポーツ大会などイベントに参加したり、韓国語以外の言語も身近に感じる事ができる環境でした。大学敷地内に寮(3人部屋1室)やコンビニもあるため生活面はとても便利でした。

[ロボティクス&デザイン工学部空間デザイン学科2年]



韓国語教育センター修了式にて



大田大学校のキャンパス



サンホセコレトス大学

2024年3月～2024年9月

2024年11月～2025年2月 [計10ヵ月間]

フィリピン・セブのサンホセコレトス大学(USJ-R)に2024年3月から2025年2月まで留学しました。USJ-Rでは、主に英語学習のプログラムを受け、現地学生に交じって英語の授業を受講しました。英語学習だけではなく多くのイベントや宗教的行事があり、フィリピンの生活習慣や文化について深く関わることができ貴重な経験となりました。多くの現地学生は勉強のために遠くから来ていることが多く、日本人学生よりも真摯に取り組んでいるように感じました。そのため、私も英語学習に真摯に取り組もうと努力する姿勢を見せると、周りも手を差し伸べてくれたので、留学を真摯に考えている方にはぜひ頑張してほしいと思います。

[知的財産研究科1年]



スポーツイベント USJ-R Intramurals 2024 に参加



国立台北科技大学

2024年2月～2025年1月 [約11ヵ月間]

特許や不正競争防止法について英語で学びました。また、MBAの授業も履修し、英語での討論が求められる中で高いレベルの授業に挑戦しました。英語ネイティブの学生が多く、異文化や政治背景について深く学ぶことができ、非常に刺激的でした。台湾だけでなく、世界中から集まった留学生と一緒に授業を受け、国際的な視野を広げることができました。さらに、現地の特許事務所でインターンシップを行い、実務経験を積みながら知識の重要性を実感しました。海外では、能動的に行動し、積極的にコミュニケーションを取ることで人脈を広げ、さまざまな学びを得ることができました。学生寮では、多国籍の学生と共に生活し、異なる文化や価値観に触れ、自己成長に繋がる貴重な経験を得ることができました。

[知的財産研究科1年]



学生寮の前で

Step 4

5. 海外研究支援プログラム Overseas Research Experience Program

本学大学院生および大学院に進学が決定している学部生を対象とし、海外の大学や研究機関等で1か月以上の研究や実務の体験を行う学生に対し、必要経費の一定範囲を大学が支援しています。派遣先での活動は、卒業研究・修士論文研究との接続などの観点から評価され、大学での教育内容との連続性が重視されます。また、一定の条件を満たした学生は日本学生支援機構海外留学支援制度による経済支援を受けることができます。

2024年度は、アメリカ、フランス、インドネシア、台湾など10か国に13人の学生を派遣しました。内容については、以下URLから参加学生たちの報告レポートを見ることができます。ぜひそちらも参照ください。

<https://www.oit.ac.jp/japanese/international/program-graduate.html>



写真：海外研究支援プログラム参加者提供

2024年度 海外研究支援プログラム派遣者リスト

	留学先 (国・地域名)	所属	研究テーマ	派遣期間
1	タマサート大学 (タイ)	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 都市デザイン工学コース2年	オープンスペースにおける 利用者行動	2024/9/17～ 2024/10/24 38日間
2	ウィーン工科大学 (オーストリア)	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 都市デザイン工学コース1年	音環境に基づいた都市空間構造の 記述方法	2024/9/25～ 2025/1/31 129日間
3	ウィーン工科大学 (オーストリア)	工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻 博士前期課程 建築学コース2年	屋外広告物と街並み形成に関する 研究	2024/11/1～ 2024/12/24 54日間
4	グラスゴー大学 (イギリス)	工学研究科 電気電子・機械工学専攻 博士前期課程 機械工学コース2年	低圧環境下における噴流-噴流干渉 技術と粒子衝突の数値・実験的研究	2024/7/29～ 2025/1/7 163日間
5	マレーシアサインズ 大学 (マレーシア)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース2年	フェナントロリン誘導体を導入した ロタキサンの分子運動評価	2024/9/7～ 2024/10/12 36日間
6	ウイドヤ・マンダ ラ・カトリック大学 スラバヤ (インドネシア)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	刺激応答性超分子架橋を利用した水 /グリセロール混合系ハイドロゲル の粘弾性制御	2024/9/7～ 2024/10/27 51日間
7	国立陽明交通大学 (台湾)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 応用化学コース1年	C-H活性化反応を用いた機能性有機 化合物の合成	2024/8/2～ 2024/9/23 53日間
8	パラカラヤ大学 (インドネシア)	工学部研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 環境工学コース1年	インドネシア中央カリマンタンにお ける WRF-SFIRE モデルの熱帯泥炭地 火災への適用を目的とした土地被覆 および燃料特性パラメータの調査	2024/10/14～ 2024/11/19 37日間
9	クレムソン大学 (アメリカ)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 生命工学コース2年	三次元培養骨格筋に対する機械・電 気刺激の影響	2024/8/14～ 2024/9/23 41日間
10	クレムソン大学 (アメリカ)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 生命工学コース1年	骨格筋の再建	2024/9/19～ 2024/10/30 42日間
11	ポリテクモンペリエ (フランス)	工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 博士前期課程 生命工学コース1年	受精卵培養システムの開発	2024/11/4～ 2024/12/16 43日間
12	Lorena alessio Architti 建築設計 事務所 (イタリア)	ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 博士前期課程 建築デザインコース2年	イタリア中世期の村の「道空間」の 魅力に関する考察 -「最も美しい村」協会に登録され ている事例を通して-	2024/7/1～ 2024/8/3 34日間
13	サラマンカ大学 (スペイン)	ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻 博士前期課程 システムデザインコース1年	音声波形の微細な変化に伴う認識結 果の変化度を利用した音声認識結果 の信頼性の推定	2024/9/29～ 2024/12/2 65日間

学部・学科独自プログラム

これまで紹介したプログラムの他にも、学部や学科単位で独自に実施した国際交流プログラムがあります。講演会やオンラインで実施したワークショップなどすべてを紹介することはできませんが、主なものをこちらで紹介します。

空間デザイン学科		 派遣プログラム
海外建築都市デザイン研修		
派遣先	ミュンヘン（ドイツ） ザルツブルク、ウィーン（オーストリア）	
開催期間	2024年9月2日～9月13日（12日間）	
参加学生	空間デザイン学科3年生 17人	
実施概要	ミュンヘンでは、ミュンヘン工科大学のキャンパス並びに大学の建築博物館を訪問。市内に点在する歴史的建造物に加えて、最先端の競技場やショールーム並びに商業施設など現地の人々の暮らしと密接に結びついた施設を見学しました。中世の都市ザルツブルクでは、散策して中規模都市の構造を理解しました。芸術の都ウィーンでは、最上級のデザインに触れて、日本の伝統デザインと比較することで、双方の特徴について考察しました。	

ミュンヘン旧市街の建物を観察

知的財産研究科		 派遣プログラム
台湾春期集中講義		
派遣先	国立雲林科技大学（台湾） 国立台湾科技大学（台湾）	
開催期間	2025年3月4日～3月8日（5日間）	
参加学生	知的財産研究科院生 5人、学部生 2人	
実施概要	経済的な結びつきが強まっている台湾に大学院生・学部生を派遣し、雲林科技大学科技法律研究所と台湾科技大学専利研究所が主催する春期集中講義を受講し、さらに集中講義の一環として、企業（TSMC 本社）や裁判所（智慧財産及商業法院）、日本台湾交流協会の訪問調査を通じて、知的財産分野における国際交流についての貴重な経験を得ました。	

雲林科技大学科技法律研究所の法廷教室における講義

知的財産研究科		 受入プログラム
夏期集中講義「Intellectual Property Studies (Summer Intensive)」		
参加大学	国立雲林科技大学、国立高雄科技大学、 国立台北科技大学、国立台湾科技大学（すべて台湾）	
開催期間	2024年8月26日～8月31日（6日間）	
参加学生	台湾学生 19人（本学協力学生 9人）	
実施概要	学生間の国際交流を図るために、大宮キャンパスに台湾の国立4大学の学生約20名を招聘し、20年後の未来に向けた知的財産制度の在り方を討論しました。期間中はユニバーサルスタジオ JAPANの知的財産責任者から著作権のビジネス活用について講義を受けるとともにダイキン、シャープへの訪問も実施し、参加者から実践的なプログラムであるとの評価を受けました。	

夏期集中講義における講義の様子

キャンパスでの国際交流

交換留学生受入 Student Exchange Program (Inbound)

本学では、交流協定を締結している海外の大学および UMAP (アジア太平洋大学交流機構、University Mobility in Asia and the Pacific) の加盟大学からの学生を、最長 1 年間、学費負担なしで受け入れています。交換留学生の受入は、本学学生にとって海外学生との交流を通じて将来グローバルに活動していく上で有益な経験を得られる場となります。

2024 年度は海外協定校 15 大学から 34 人の交換留学生を受け入れ、指導教員の研究室に所属する延べ 213 人の学生が協力学生として交換留学生と交流しました。

2024 年度 交換留学生受入実績

	協定校名 (国・地域名)	目的	受入学科/研究科専攻 (人数)	時期 (期間)
1	南台科技大学 (台湾)	授業履修	機械工学科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
2	国立台北科技大学 (台湾)	授業履修	電気電子システム工学科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
3	国立台北科技大学 (台湾)	授業履修	応用化学科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
4	国立台北科技大学 (台湾)	授業履修	ロボティクス工学科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
5	国立雲林科技大学 (台湾)	授業履修	電気電子システム工学科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
6	タマサート大学シリトーン国際工学部 (タイ)	研究	情報科学研究科 (1 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
7	ミュンヘン工科大学 (ドイツ)	研究	ロボティクス&デザイン研究科 (1 人)	2023 年 4 月-8 月 (5 カ月)
10	モンペリエ大学ポリテクモンペリエ (フランス)	インターン	機械工学科 (3 人)	2024 年 4 月-6 月 (2 カ月)
12	ENTPE (フランス)	インターン	工学研究科化学・建築・都市デザイン工学専攻 (2 人)	2024 年 4 月-8 月 (約 5 カ月)
13	国立陽明交通大学 (台湾)	研究	工学研究科化学・環境・生命工学専攻 (1 人)	2024 年 5 月 (約 2 週間)
15	タマサート大学シリトーン国際工学部 (タイ)	インターン	システム工学科 (2 人)	2024 年 6 月-7 月 (2 カ月)
16	国立陽明交通大学 (台湾)	研究	工学研究科化学・環境・生命工学専攻 (1 人)	2024 年 6 月-7 月 (1 カ月)
17	国立陽明交通大学 (台湾)	研究	工学研究科化学・環境・生命工学専攻 (1 人)	2024 年 7 月-8 月 (1 カ月)
18	南京工業大学 (中国)	授業履修	都市デザイン工学科 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 2 月 (6 カ月)
19	国立雲林科技大学 (台湾)	授業履修	都市デザイン工学科 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 8 月 (11 カ月)
20	ミュンヘン工科大学 (ドイツ)	研究	工学研究科建築・都市デザイン工学専攻 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 1 月 (4 カ月半)
21	ミュンヘン工科大学 (ドイツ)	インターン	都市デザイン工学科 (1 人)	2024 年 10 月-2025 年 2 月 (5 カ月)
22	モンゴルコーセン技術カレッジ (モンゴル)	授業履修・インターン	機械工学科 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 8 月 (1 年)
23	南台科技大学 (台湾)	授業履修・研究	工学研究科電気電子・機械工学専攻 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 2 月 (6 カ月)
24	国立台北科技大学 (台湾)	授業履修	知的財産研究科 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 2 月 (6 カ月)
25	国立台北科技大学 (台湾)	授業履修	空間デザイン学科 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 2 月 (6 カ月)
26	国立陽明交通大学 (台湾)	研究	工学研究科化学・環境・生命工学専攻 (1 人)	2024 年 9 月-2025 年 1 月 (4 カ月)
27	マドリード工科大学 (スペイン)	インターン	情報知能学科 (1 人)	2024 年 10 月-2025 年 7 月 (10 カ月)
28	チュラロンコン大学 (タイ)	研究	工学研究科化学・環境・生命工学専攻 (1 人)	2024 年 10 月-11 月 (2 カ月)
30	カチョン大学校 (韓国)	研究	ネットワークデザイン学科 (2 人)	2024 年 12 月-2025 年 2 月 (2 カ月半)
31	マドリード工科大学 (スペイン)	インターン	情報知能学科 (1 人)	2025 年 2 月-2025 年 7 月 (6 カ月)
32	ウィーン工科大学	研究	工学研究科・建築・都市デザイン工学専攻・八幡工学実験場 (1 人)	2025 年 2 月-2025 年 3 月 (2 カ月)
33	マドリード工科大学 (スペイン)	インターン	空間デザイン学科 (1 人)	2025 年 3 月-2025 年 8 月 (6 カ月)
34	サンホセレコルトス大学 (フィリピン)	インターン	情報メディア学科 (1 人)	2025 年 3 月-2025 年 9 月 (7 カ月)

留学生との交流 International Exchange on Campus

国際友好部

国際交流を通じてグローバル人材になることを目標とし、交換留学生のサポートや交流イベントを企画・運営しています。交換留学生歓送迎会や、季節ごとのイベントや校外研修も実施しています。2024年度は以下のイベントを実施しました。

実施日	イベント交流等	場 所	参加人数
4月19日	交換留学生歓送迎会 クイズ大会	大宮キャンパス Chast	本学学生：21人 交換留学生：10人
6月2日	バーベキュー交流会	淀川河川敷	本学学生：19人 交換留学生：11人
10月4日	交換留学生歓送迎会 コミュニケーションゲーム	大宮キャンパス Chast	本学学生：12人 交換留学生：7人
11月20日	ピザパーティ交流会	大宮キャンパス LLC	本学学生：15人 交換留学生：8人

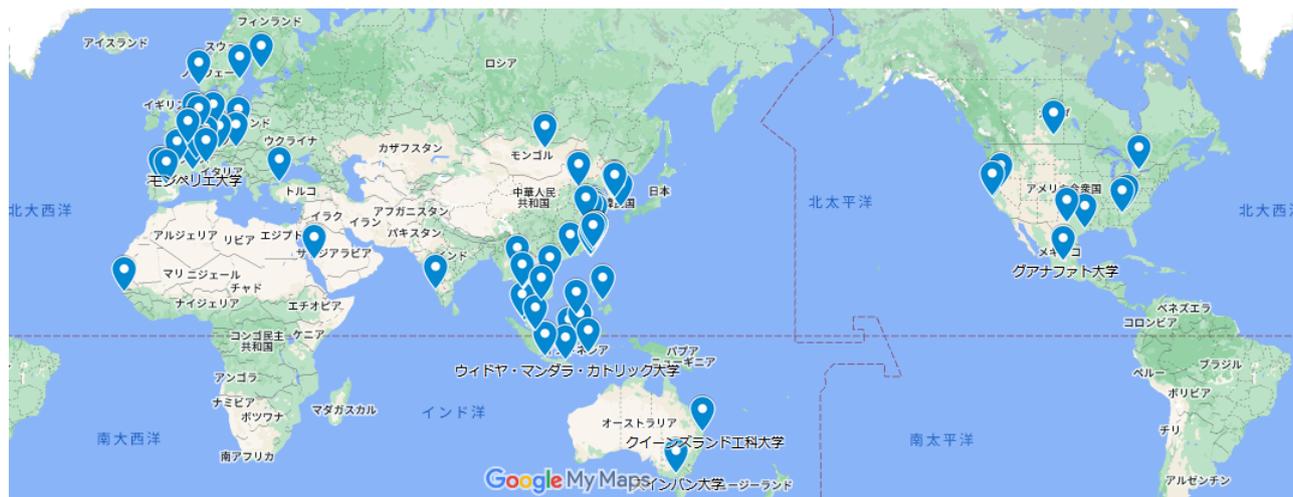
参加留学生の出身国：

ドイツ、フランス、スペイン、ポーランド、オーストリア、インドネシア、タイ、モンゴル、中国、台湾、韓国など



大阪工業大学 海外交流協定締結機関一覧

本学では 2025 年 2 月末までに世界の 29 か国 84 機関と交流協定を締結しています。



アジア

国・地域	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
中国	同济大学	Tongji University	1992 年 11 月	学術交流および友好協力関係に関する覚書
	清華大学	Tsinghua University	2010 年 2 月	学生交流に関する覚書
	浙江省寧波市国際人材交流協会	Ningbo, China	1993 年 12 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書
	華東理工大学	East China University of Science and Technology	2008 年 9 月	環境問題を中心とした改善に関する協定
	浙江大学	Zhejiang University	2017 年 3 月 2022 年 6 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	北京科技大学	University of Science and Technology Beijing	2016 年 5 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 (工学部)
	香港伍倫貢學院	UOW College Hong Kong	2020 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	南京工業大学	Nanjing Tech University	2023 年 3 月 2023 年 3 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定 (本学は情報科学部に限定)
韓国	大田大学校	Daejeon University	2023 年 11 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国民大学校	Kookmin University	2023 年 11 月	学生交換の促進に関する協定
	仁濟大学校	Inje University	1994 年 7 月	科学技術と教育における交流促進に関する覚書
	中央大学校	Chung-Ang University	2014 年 3 月	学生交流に関する協議書
	嘉泉大学校	Gachon University	2017 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
台湾	国立虎尾科技大学	National Formosa University	2017 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国立雲林科技大学	National Yunlin University of Science and Technology	2007 年 2 月 2020 年 2 月更新 2020 年 2 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書 教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	世新大学	Shih Hsin University	2009 年 3 月	学術文化交流および友好協力関係に関する覚書
	国立高雄科技大学	National Kaohsiung University of Science and Technology	2009 年 6 月 2019 年 3 月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	国立台北科技大学	National Taipei University of Technology	2012 年 3 月 2017 年 3 月	連携と学術交流に関する覚書 学生交換に関する協定
	国立台湾科技大学	National Taiwan University of Science and Technology	2013 年 10 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	国立清華大学	National Tsing Hua University	2014 年 9 月 2014 年 9 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	南台科技大学	Southern Taiwan University of Science and Technology	2016 年 1 月 2016 年 1 月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	大同大学	Tatung University	2016 年 9 月 2019 年 1 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	台湾經濟部	The Ministry of Economic Affairs, Taiwan (MOEA)	2020 年 2 月	就職支援に関する覚書
	国立中興大学	National Chung Hsing University	2020 年 9 月 2020 年 9 月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	国立陽明交通大学	National Yang Ming Chiao Tung University	2023 年 2 月	教育、研究、専門的活動に関する両大学の国際理解と協力関係の促進に関する覚書

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
モンゴル	モンゴル工業技術大学	Institute of Engineering and Technology	2019年12月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	モンゴルコーセン技術カレッジ	Mongol Koosen College of Technology	2023年2月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
フィリピン	サンホセレコレトス大学	University of San Jose-Recoletos	2020年1月 2022年11月更新 2022年11月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定書（ESLとコンピューター分野対象）
インドネシア	パランカラヤ大学	Palangka Raya University	2015年5月	教育と研究における連携と学術交流の発展に関する覚書
	ウィドヤ・マンダラ・カトリック大学スラバヤ	Widya Mandala Catholic University Surabaya	2017年4月 2022年6月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ムラワルマン大学	Mulawarman University	2018年1月 2023年1月延長	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	バクリ大学	Bakrie University	2018年4月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ハサヌディン大学	Hasanuddin University	2020年10月 2020年10月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
マレーシア	マレーシア工科大学	Universiti Teknologi Malaysia	2013年5月 2019年9月更新	教育・研究・社会貢献における交流と連携、関係強化に関する覚書
	ペトロナス工科大学	Universiti Teknologi PETRONAS	2019年7月 2019年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	マレーシアサイエンス大学	University of Science Malaysia	2023年6月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
シンガポール	シンガポール工科大デザイン大学	Singapore University of Technology and Design	2022年10月	教育・研究分野での協力と交流の発展に関する覚書
タイ	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology	2009年2月	短期学生交換に関する協定
	タマサート大学シリントーン国際工学部	Sirindhorn International Institute of Technology - Thammasat University	2009年6月 2014年6月更新 2023年4月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	チュラロンコン大学	Chulalongkorn University	2023年4月 2021年7月	学生交換の促進に関する協定 教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	Rajamangala University of Technology Thanyaburi	2022年10月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書
	タマサート大学	Thammasat University	2023年6月	交流および共同プログラム設立のための連携発展に関する覚書（理工学分野のみ）
	チェンマイ大学	Chiang Mai University	2023年6月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	マヒドン大学	Mahidol University	2024年8月 2024年8月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書 学生交換の促進に関する協定
	VISTEC	Vidyasirimedhi Institute of Science and Technology	2025年1月	科学研究と教育における協力推進に関する覚書
ベトナム	ダナン工科大学	University of Science and Technology - The University of Danang	2016年3月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	カントー大学	Can Tho University	2019年11月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
インド	マニパル大学	Manipal Academy of Higher Education	2017年11月 2023年2月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2017年11月 2023年2月更新	学生交換の促進に関する協定

オセアニア

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
オーストラリア	クイーンズランド工科大学	Queensland University of Technology	2009年3月	QUT が提供する学習プログラム(短期語学研修)に関する協定
	スウィンバン工科大学	Swinburne University of Technology	2015年6月	学術および教育事業(語学研修)における連携に関する協定

北米

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
アメリカ	サンノゼ州立大学	San Jose State University	1997年5月 2000年5月改正	学術交流および友好協力関係に関する覚書(短期語学研修)
	ライス大学	Rice University	2010年2月 2015年6月更新 2020年7月延長	直接的な交流と連携の推進に関する覚書
	アンジェロ州立大学	Angelo State University	2015年4月	学生交換、学術交流に関する協定
	クレムソン大学	Clemson University	2016年8月	国際教育、研究、サービス、およびその他の関連活動における相互協力に関する覚書
	ジョージア工科大学	Georgia Institute of Technology	2018年6月	研究および教育分野における連携に関する協定
	ネバダ大学リノ校	University of Nevada, Reno	2022年4月	学術分野の連携強化、学術協力の促進に関する覚書
	サンフランシスコ州立大学	San Francisco State University	2023年2月	学生、教職員のための教育・研究協力を強化するためのあらゆる可能性の検討に関する覚書
カナダ	OCAD 大学	OCAD University	2022年5月	国際・異文化理解と学術交流促進のための基盤提供と共同学術活動の発展・実施に関する覚書
	レジャイナ大学	University of Regina	2024年11月 2024年11月	学生および教職員交換の協力に関する協定 学生交換の促進に関する協定

中南米

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
メキシコ	グアナファト大学	The University of Guanajuato	2019年10月	学術活動の推進と国際的視野の獲得に関する覚書
			2019年10月	学生交換の促進に関する協定

ヨーロッパ

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
フィンランド	タンペレ大学	Tampere University	2014年2月 2020年12月更新	学術連携に関する協定（建築分野を除く）
スウェーデン	ウプサラ大学	Uppsala University	2018年5月 2023年5月更新	教育と研究における交流と連携の発展に関する覚書（ゲームデザイン分野対象）
			2019年9月	学生交換の促進に関する協定（ゲームデザイン分野対象）
ノルウェー	スタヴァンゲル大学	University of Stavanger	2020年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（理工学分野のみ）
			2020年7月	学生交換の促進に関する協定書（理工学分野のみ）
ポーランド	ヴロツワフ工科大学	Wroclaw University of Science and Technology	2016年3月 2021年3月更新	研究と教育分野における連携発展に関する協定
オランダ	デルフト工科大学	Delft University of Technology	2016年6月 2022年5月更新	工学教育および科学研究における連携促進に関する覚書（航空宇宙工学分野のみ）
	アイントホーフエン工科大学	Eindhoven University of Technology	2022年7月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書（電気工学分野のみ）
ドイツ	ヴッパータール大学	University of Wuppertal	2010年3月 2013年3月更新 2018年3月更新 2023年3月延長	教育と科学の連携に関する協定
			2018年3月 2023年3月延長	学生交換の連携に関する補足的協定
	ミュンヘン工科大学	Technical University of Munich	2009年12月 2015年2月更新 2020年10月更新	学術連携と交流に関する覚書
			2020年10月	学生交換に関する協定（土木環境分野のみ）
ミュンヘン防衛大学	University of the Bundeswehr Munich	2009年12月 2015年2月更新 2020年7月更新	研究と高等教育における連携拡大に関する覚書	
		2020年7月	学生交換に関する協定	
		2021年3月	教育と研究における協力と交流の発展に関する覚書（建築土木分野のみ）	
HAWK 応用科学芸術大学	HAWK University of Applied Sciences and Arts	2021年3月	学生交換の促進に関する協定（建築土木分野のみ）	
		2024年1月	学生交換の促進に関する協定（デザイン分野のみ）	
オーストリア	ウィーン工科大学	TU Wien	2013年5月 2018年4月更新 2023年3月延長	研究協力と教育交流の発展に関する協定
イタリア	トリノ工科大学	Politecnico di Torino	2025年1月	教育と研究における協力関係の構築に関する覚書
スイス	スイス北西部応用科学芸術大学	FHNW University of Applied Sciences and Arts Northwestern Switzerland	2024年1月	学生および教職員交換の協力に関する協定
フランス	パリ・デジタルイノベーション大学院	EPITECH (Ecole pour l'informatique et les nouvelles technologies)	2019年11月 2024年3月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
	ボルドー大学	University of Bordeaux	2024年3月	学生交換の促進に関する協定
			2020年12月 2020年12月	国際連携のための基本的合意 学生交換に関する協定
	モンペリエ大学	University of Montpellier	2023年2月	学術交流と教育・研究における協力関係の促進に関する覚書
	ポリテクモンペリエ	Polytech Montpellier	2023年2月	学術交流と教育・研究における協力関係の促進に関する覚書
	ENTPE	Graduate School of Civil, Environmental and Urban Engineering	2024年1月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校	Ecole Nationale Supérieure d'Architecture Paris-Val de Seine	2024年12月 2024年12月	学術協力と交流の発展に関する協定 学部生と大学院生の交換に関する覚書	
スペイン	サラマンカ大学	University of Salamanca	2013年5月 2021年10月更新	国際的な大学間協力に関する基本合意
	マドリード工科大学	Technical University of Madrid	2015年6月 2020年6月更新 2024年10月更新	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
2020年6月 2024年10月更新			学生交換の促進に関する協定	

中東

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
トルコ	オジェギン大学	Ozyegin University	2023年12月	教育と研究における連携と交流の発展に関する覚書
			2023年12月	学生交換の促進に関する協定
サウジアラビア	キング・アブドゥルアズィーズ大学	King Abdulaziz University	2014年9月	連携分野における学生・教員・研究者の交流に関する覚書

アフリカ

国	交流大学等	英文表記	協定締結年月	協定の概要
セネガル	ジガンシヨール大学	Assane Seck University of Ziguinchor	2023年2月	研修、研究、技術革新、地域社会への奉仕、知識および文化の普及に関する枠組み協定

大阪工業大学のグローバル学習支援（2025年度）

対象プログラム	支援内容
語学研修	派遣型：5万円
海外大学提供プログラム	オンライン型：1万円
大学が認定した留学プログラム等※	※事前申請書による支給審査あり
国際PBL	学生の渡航費補助：渡航費実費のうち東アジア：4万円、東南アジア：6万円を大学が負担 プログラム費用は受入大学が原則負担
海外研究支援制度	渡航費の実費相当（国・地域ごとに上限あり） JASSO 奨学金（月額 8～12万円）または 1日 2,000円の生活費支援
長期交換留学	渡航費の実費相当（国・地域ごとに上限あり） JASSO 奨学金（月額 8～12万円）

※支援額など条件を変更する場合があります。詳しくは国際交流 HP で確認してください。

大阪工業大学 国際交流センター OIT International Center

海外協定校等から交換留学生を受入れ、本学学生との交流機会を設けています。

留学に関する相談を受け付けていますので、気軽にお越しください！

オンラインでの相談も可能です！

[場 所] 大宮キャンパス Chast1 階 **[E-mail]** OIT.Kokusai@josho.ac.jp

[開室時間] 月曜～金曜 9:00～17:00 **[電話番号]** 06-6954-4935

（土曜は行事および事前予約の場合を除き閉室。メール対応のみ）

オンライン個別相談

留学や国際交流に関する相談が可能です！
下記 QR コードから予約をしてください。



参加学生のレポート

留学に参加した学生にレポートが閲覧できます。OIT アカウントでのログインが必要です。



大学国際交流 HP



Instagram @oit.kokusai



X @OIT_INTL



LINE @959vzyhe

ランゲージ・ラーニング・センター (LLC) Language Learning Center

英語学習のための「英語空間」！スタッフは国際色豊かでフレンドリー
コンサルテーション・ルームで先生と会話練習や、自分にあった英語学習プランのアドバイスを受けることができます。英語学習教材、映画DVD、ゲーム、英語漫画などの利用もできます。

3階には女性専用のパウダールームもあり、女子学生にも利用しやすくなっています。

[場 所] 大宮キャンパス Chast（受付2階）

※梅田・枚方キャンパス向けのサービスもあります。

[開室時間] 授業期間中の月曜～金曜 9:00～19:00



LLC
ウェブサイト



編集・発行 大阪工業大学 国際交流センター 2025年3月31日

〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番地1号

TEL (06)6954-4935

Website: <https://www.oit.ac.jp/international/index.html>